

<p>第 19 回淀川部会 (2002.10.29 開催) 結果報告</p>	<p>2002.10.31 庶務発信</p>
<p>開催日時：2002年10月29日(火) 13:30～16:30 場 所：京都リサーチパーク4号館地下1階 バズホール 参加者数：委員15名(うち1名は部会長の要請により参加)、河川管理者18名、 一般傍聴者119名</p>	
<p>1 決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の淀川部会は、11月29日(火)15:00～18:00に開催(時間については部会長一任であったが、部会終了後、部会長と相談の結果表記の通りとなった)。11月16日(土)の最終提言作業部会で決定する最終案について検討する。 ・ 本日議論した最終提言素案の修正案等については、庶務宛へ文書で知らせる。 <p>2 審議の概要</p> <p>委員会および委員会WGからの報告</p> <p>庶務から、資料1-1「委員会および各部会、WGの状況」、資料1-2「委員会WG結果概要」を用いて、前回部会以降に開催された委員会や他の部会、委員会WGについて説明が行われた。</p> <p>最終提言に関する意見交換</p> <p>最終提言作業部会リーダーの今本委員が、資料2-1-2「最終提言素案」について説明。その後、2つの案(A案、B案)が併記された「4-6 ダムのあり方」中心に意見交換が行われた。</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの淀川部会の議論を考えた場合、基本的にはB案でいくべきと思う。 ・ ダム建設を抑制すべきだと提言しているB案でさえ、「ダムによる洪水調節は原則として採用しない」としていた淀川部会の中間とりまとめよりも後退している気がする。 ・ この流域委員会で必要なことは、理念の転換とそれを実現するための原理・原則を明確にすること。その観点からはB案が望ましい。 ・ 既設ダムの対応として生態系の連続性の回復に魚道の設置が書かれているが、魚道の設置だけでは、生態系の連続性の回復は不可能だ。 ・ 4-5(河川環境計画のあり方)での「河道植生」という言葉は、「河床形態」に変えるべき。 <p>3 一般傍聴者からの意見聴取</p> <p>一般傍聴者3名から「現状の高水敷利用に関する記述では、川で遊ぶ子どもやボランティアまで排除することにならないか」「高水敷利用の記述が中間とりまとめよりも厳しい内容となっていて、困惑している。利用の抑制ばかりについて書かれているが、撤退した後の土地管理が疑問」「現在のグラウンドを撤去した後の管理について疑問を持たれているが、高水敷が自然に戻ったら、もとの川に戻ったらいけないのか」といった意見が出された。</p> <p>4 その他</p> <p>庶務から、資料3「精華町長からの意見交換実施の申し入れに関する対応について」に関し、申し入れと対応に関する経緯の説明と精華町長に対する返答について報告があった。</p>	

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を、発言の詳細については「議事録」を参照下さい。